

人材養成および教育研究上の目的		
応用物理学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、自然界の諸現象を支配する普遍的法則の探究を通して物理学の概念や物質観を身に付け、自立して研究活動を行い得る高度な研究能力を持つ人材の育成を行う。また、この学術的素養を活かして、社会の諸方面において活躍できる創意ある専門職業人を養成することを目的とする。博士課程前期では、応用物理学に関する学識と応用力を養い、研究能力を開花・発展させる教育を行う。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な研究能力を備えた人材の育成を図る。		

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞		
理学研究科応用物理学専攻では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（理学）の学位を授与する。		
知識・理解 【学修成果の目標】 ・物理学に関して、広い視野に立って深い学識・知識を習得し、応用することができる。(DP1) ・応用物理学の体系を理解できる能力を有している。(DP2) 【到達指標】 ・応用物理学に関して、広い視野に立って深い学識を修め、知識を習得し、応用物理学の体系を理解することができる。(DP1・DP2)	【教育課程の編成】 ・「講究」・「実験」等の授業科目を通じて専門分野に関する知識や自然科学研究の実験手法を修得することができるように、教育課程が編成されている。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・専修分野の専門的知識や自然科学の研究手法を各専修の主要科目によって身に付け、包括的に応用物理学の体系を理解できるように、教育課程が実施されている。 【学修成果の評価方法】 ・広い視野に立って深い学識を修め、物理学に関する専門的な研究能力、又は専門的な業務に従事するために必要な能力を有することを学修成果の評価方法とする。(DP1・DP2)	【求める学生像】 左記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、学生の受け入れ方針として、「物理現象やその応用に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材」を求めている。博士課程前期では、一定水準以上の学力があって、かつ自然や数理の諸現象に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。
技能 【学修成果の目標】 ・応用物理学に関する専門的な研究能力、又は専門的な業務に従事するために必要な能力を身に付けることができる。(DP3) 【到達指標】 ・研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は自然科学・数理学に関わる専門的な職業に従事するために必要な高度な能力を有している。(DP3)	【教育課程の編成】 ・「講究」・「実験」等の授業科目を通じて専門分野に関する知識や自然科学研究の実験手法を修得して、研究能力や自己表現力を涵養できるように教育課程が編成されている。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・上記に科目に加え、選択科目に関しては専攻内の他専修だけでなく他専攻の科目も受講できるようになっており、専門にこだわらない多面的かつ先端的技能を修得できるように、教育課程が実施されている。 【学修成果の評価方法】 ・研究室での日常的な議論や研究進捗状況の把握、中間発表会などを通じて評価する。 ・修了に必要な専修科目及び特修科目の単位取得をもって、技能の習得の評価方法とする。(DP3)	【入学選抜の在り方】 左記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、入学選抜の在り方として、「学部で習得すべき物理学・数学、英語に関して一定水準以上の学力がある人材」を求めている。特に成績優秀な学部学生には、3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・自然界の諸現象を支配する普遍的法則の探究を通して応用物理学の概念や物質観を有している。(DP4) 【到達指標】 ・学術的素養を活かして、社会の諸方面において活躍できる創意ある専門職業人として活躍できる。(DP4)	【教育課程の編成】 ・「講究」・「実験」等を通して、応用物理学の視点から社会の様々な問題の解決に取り組むこと態度・志向性を持った人材を育成するように研究課程の編成が行われている。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・「講究」・「実験」等の授業科目を通じて専門分野に関する知識や自然科学研究の実験手法を修得して、上記の態度・志向性を持った人材を育成できるよう、教育課程が実施されている。 【学修成果の評価方法】 ・広い視野に立って深い学識を修め、専門分野についての研究能力又は専門分野に関わる職業に従事するために必要な能力を有するか否かをもって、態度・志向性の評価方法とする。(DP4)	
＜博士課程後期＞		
理学研究科応用物理学専攻では、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（理学）の学位を授与する。		
知識・理解 【学修成果の目標】 ・応用物理学に関する深い学識を有する。(DP1) 【到達指標】 ・応用物理学の未解決問題の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を遂行する知を有する。(DP1)	【教育課程の編成】 ・研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は自然科学・数理学に関わる専門的な職業に従事するために必要な高度な能力を有するに十分な知識・理解を得られるように教育課程が編成されている 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 学生の学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、加えて自然科学・数理学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目を設置している。 【学修成果の評価方法】 ・上記の知識・理解が、博士（理学）の学位授与に相当するか、博士論文審査会や取得単位などで総合的に判断する。(DP1)	【求める学生像】 左記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、「研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行う高度な研究能力、又は高度に専門的な業務に従事するために必要な能力を育成するため、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材、及び社会が求める高度な研究開発能力を有する人材の育成に資する人材を求めている。
技能 【学修成果の目標】 ・応用物理学に関する研究に対して、自立して独創的な研究を遂行できる。(DP2) 【到達指標】 ・応用物理学の分野において、社会が求める高度な研究開発能力・技能を有する。(DP2)	【教育課程の編成】 ・前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材の育成すべく、教育課程が編成されている。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 学生の学位取得に向けた自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、加えて自然科学・数理学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目が設置、実施されている。 【学修成果の評価方法】 ・上記の学修成果の最終的評価方法として与えられる博士（理学）の学位授与には査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。(DP2)	【入学選抜の在り方】 左記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、学生の受け入れ方針では「一定水準以上の研究遂行能力と強い研究意欲を有する学生」を求めている。自然現象や数理の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を遂行する意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・研究者として自立して研究活動を行う主体的研究姿勢、新たな研究知見を自ら求める志向性を持つことができる。(DP3) 【到達指標】 ・自然科学・数理学に関わる専門的な職業に従事するために必要な高度な能力を有することができる。(DP3)	【教育課程の編成】 ・研究者として自立して研究活動を行う主体的研究姿勢、新たな研究知見を自ら求める志向性を持つことができるように教育課程が編成されている。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・研究者として自立して研究活動を行う主体的研究姿勢、新たな研究知見を自ら求める志向性を持つことができるように教育課程が実施されている。 【学修成果の評価方法】 ・上記の態度・志向性が、博士（理学）の学位授与に相当するか、博士論文審査会や取得単位などで総合的に判断する。(DP3)	